



TITLE:

質疑欄

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑欄. 天界 1920, 1(1): 12-12

ISSUE DATE:

1920-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159510>

RIGHT:

質 疑 欄

(一) 手に入り易き英文の星圖を御紹介願上

(X Y 生)

【答】手頃で便利なのは案外少い様ですが普通

の

(1) Mc Clure : Star Atlas

(2) R. A. Proctor : Star Atlas 價七圓半

(3) R. A. Proctor : Star Atlas (小形)

價貳圓位

(4) A. P. Norton : Star Atlas and Telescope

Handbook 五圓位

(5) R. S. Ball : Popular Guide to the

Heavens 七圓半

(6) T. Heath : Twentieth Century Atlas

of Popular Astronomy 四圓位

何れも肉眼が一吋した双眼鏡で見ゆる恒星迄を載せてあります。(一)はチャンバース

氏がよいと云つて居ます者で英國では從來 Klein 又は Proctor の圖が行はれ居た様で

す。(二)は宜しいが少し詳しい様で (五)

(六)は星圖中の星の名が所々畧してあります且太陽系だとか外の畧もあります。先づ簡便なのはプロクターの小型(三)とノルトン(四)をせう。(四)は一昨年再版後品切

かも知れず(三)は先日(十月二十六日)大阪丸善の店にありました(K, K)

(二) 春分點を見る方法(京都 K 生)

【答】春分點と云つても別にそんなしるしが

天に見ゆるのでもなく又丁度うまく輝いた星が其位置を占めて居るのでもありませんカシオペア座ゼータ星とアンドロメダ座アルファ星とを結んで其方向に同じ位の距離だけさつた所がさつと現今の春分點です

(K, K)

(三) 月が常に一面のみを見せてゐる理由

【答】一寸考へるに月が自轉しないための様

思はれますが實は月が地球をまはる、公轉の時間と月の自轉の時間とが、丁度等しく二十七日三分の一程であるため何時も同じ半面が見ゆるのです。所が詳しく調べて見ると實は或原因のため何時も同じ半面ではなくて時に外の所が少し見えて結局月面の百分の五十九が吾々の見ゆる所です。殘りの百分の四十一は全く見えない未知境です。それではなぜ自轉と公轉と等しい長さなのがこの御質問が出るでせうこれは多分月の生れ方其後の進化の歴史によるのでせう。(K, K)

觀測室だより

今年はどうしたことが彗星發見が少ない。もはや二ヶ月で暮れやうとされてゐるのに、眞の發見といふのは、五月末に百濟君が發見したものの一つだけで、第二第三が續かない。まさか歐米の空は曇天ばかりでもあるまい。昨年の今夜は我が京大の佐々木君がフインレーを發見した夜だ。あれは昨年での第四星でそれまでに既に三つも發見されてゐたのに。曇天といへば、今年八月例の白鳥座新星が發見した頃は、歐米の天はすいぶん曇りで不幸を見たとし。先づ、天の寫眞を毎夜撮つて何が新しい事件でも起つた時に貴重なレコードを提供してくれる答のハーバード天文臺が、八月十日以後長く曇天にぶつかつて仕事が出来なかつたため、光輝上昇の珍らしく緩慢であつた此度の新星の撮影に大切な時機を逸してしまひ、更に又英國では新星發見後間もなく曇天に襲はれ一週間も星を見なかつたため、新星進化上最も重要な第一期のスペクトルを觀測することが出来ず、可惜大家達が天を仰いで切齒したと報告してゐる。此れに比べると我が京都天文臺などは幸福であつた。八月二十六七日だけは曇らねたが其他は全部快晴であつたから總ての觀測は好都合でスペクトルの寫眞は三十枚も撮つた。殊に二十五日のスペクトルは新星進化の一大回轉期に遭遇した寫眞で第一期の初頭に於ける星の事狀が頗る面白く讀み取られる。これにつけても思ふことは、天文の仕事は、總てプログラムを天氣によつて支配される以上、大設備の天文臺にばかり委せて置けないことだ。(一九二〇・一〇・二五。山本)